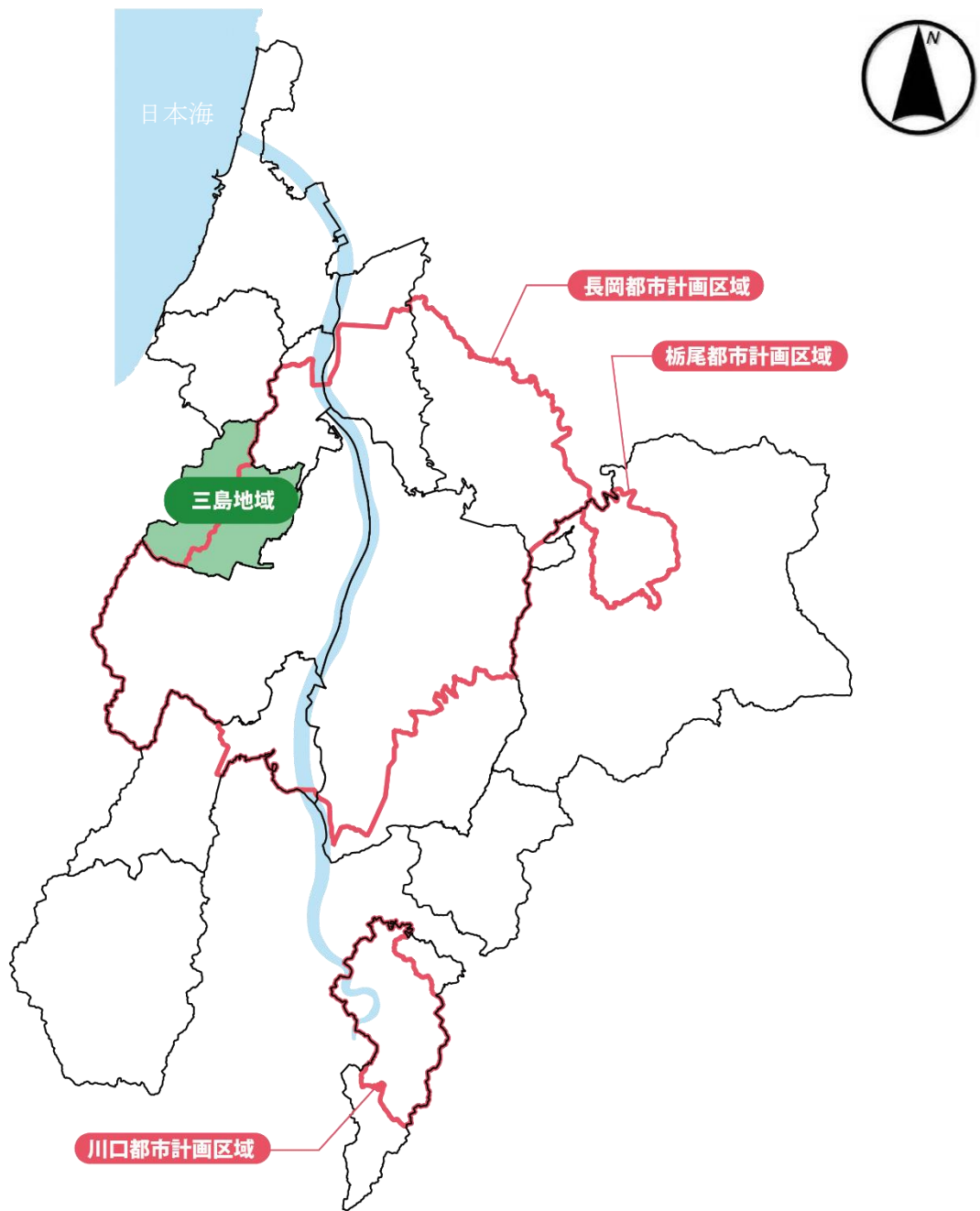


第4節 三島地域



第4節

三島地域

◀地域に関するデータ

(2020年4月住民基本台帳) ▶

- ・総面積： 36.5 km² (4.1%)
- ・総人口： 6,635 人 (2.5%)
- ・世帯数： 2,403 世帯 (2.2%)

※ () 内は市全体に占める割合

1 地域の現状

(1) 人口

- 地域人口は、2020年で6,635人。地域別人口増減(2009年～2019年)は、地域全体で8.8%の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。
- 支所周辺の既成市街地(上岩井、吉崎地区)に人口が集積しています。日常生活に必要なサービス機能をまちなか居住区域内に維持・確保し、人口密度を高める必要があります。
- 高齢化率(65歳以上人口割合)は、2020年で約33%です。

(2) 産業

- 地域における従業者数は、2016年で2,342人。地域の特産品の販売をはじめとした卸売業・小売業のほか、建設業と製造業が盛んで、製造業の従業者割合が約3割を占めています。
- 2015年時点における経営耕地面積は668ha、農家戸数は177戸です。

(3) 土地利用

- 三島新保地区、鳥越地区の幹線道路沿いには、農村地域工業導入地区が整備され、精密機器、食品加工、金属加工などの企業が立地しています。
- 支所に隣接する「はなみずき団地」では、住環境が整っているものの、未分譲地があることから販売促進を図る必要があります。
- 診療所や子育て支援施設、金融機関をはじめとした公共施設等の都市機能は、支所周辺の都市機能誘導区域内に比較的まとまって立地しています。
- 市街地内の大部分が信濃川等の洪水浸水想定区域に該当しています。谷戸沿いに広範囲な土砂災害警戒区域が指定され、土砂災害特別警戒区域も散在しています。

(4) 生活基盤

- 都市計画道路である国道352号が東西に横断しているほか、南北には国道403号及び県道と板関原線が配置され、地域の重要な路線となっています。歩道の一部が未整備の都市計画道路があるものの、都市計画公園が整備され、都市基盤は整っています。
- 公共交通では、路線バスが長岡、与板、出雲崎方面に連絡され、市街地や集落の利用圏域を広くカバーしています。
- 上水道は、ほぼ全域に給水しています。下水道については、汚水処理が概成しています。

2 主な地域資源、地域の宝

- 三島地域には、酒や味噌、そうめんなどの特産物のほか、豊富な山林資源を背景に脇野町鋸などの伝統産業、地域の宝である里山があります。



▲越後みしま竹あかり街道

▲里山資源から新たな特産品の開発

▲全日本丸太早切選手権大会

里山資源の整備や保全、教育活動等を通じて、交流と学びの場として活用。里山保全で伐採した竹を利用した全国有数の規模のライトアップイベント「越後みしま 竹あかり街道」や「みしまの里山資源活用プロジェクト」を実施。

西照寺



脇野町鋸



蓮花寺の大杉



東側の平坦地に水田地域が広がり、西側の西山丘陵には、豊富な里山資源のある山間地が広がっている。水稻を中心とした農業、良質な湧水で製造される酒や味噌、そうめん、脇野町鋸などの地場産業が盛んである。

図 3-4-1《主な地域資源 三島地域》

(長岡地域の宝ポータルサイト、長岡市地域の宝 磨き上げ事業成果報告書(2018 年度)ほか)

3 地域の課題と地域づくりの方針

都市機能が集積したコンパクトなまちづくりと水害に対する取組を推進し、地域内人口の確保・維持を図るほか、長岡地域の都心部への良好なアクセス性を活かすことにより、地域資源の魅力向上と交流機会の拡大を進めます。

(1) 都市機能を集約したコンパクトなまちづくり

公共施設をはじめとした都市機能が支所周辺に集積した、コンパクトな市街地が形成されているものの、まちなか居住区域の「はなみずき団地」には多くの未分譲区画が存在し、課題となっています。

今後も、支所周辺に集積している都市機能を維持し、コンパクトなまちづくりを継続するとともに、遊休地の有効活用を進めることで更なる地域の活性化と人口の定着を図ります。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・支所周辺を核としたまちづくりの継続 ・はなみずき団地の分譲促進と遊休地の活用 など
------	---

(2) 里山資源を活用した長岡地域（都心部）との交流機会の拡大

三島林業地としての里山資源や林業に係る地場産業などの地域資源を有しています。保安林や国有林をはじめ、地域森林計画と整合を図りながら適切に維持保全し、地域振興へ繋げる取組が必要です。

また、「市道三島 32 号線ほか（愛称：長岡・三島ふれあい道路）」の整備により、長岡地域の都心部へのアクセス性が更に強化されました。この優れたアクセス性と地域資源を活用し、長岡地域との交流機会の創出を図り、地域振興へ繋がります。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・里山資源（丸太）の活用 ・里山体験や竹あかり街道の更なる PR ・造林・保育事業の継続的な実施
------	--

(3) 水害に強いまちづくり

西山丘陵地から流れる黒川流域の低地部では、度々、浸水被害が発生しています。また、脇野町地区における地盤沈下の進行への対応のほか、市街地の大部分が洪水浸水想定区域に指定されていることから、浸水被害の軽減をはじめとした水害への対応が課題です。

頻発・激甚化する豪雨災害から市民の生命、財産を守るため、河川の改修工事やしゅん濇、市街地内の浸水対策を推進し、治水安全度を高めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・黒川河川改修工事の継続 ・河川のしゅん濇（小木城川、茶川） など
------	--

(4) 「地域の足」の確保

JR 長岡駅と地域を結ぶバス路線は「地域の足」として重要な役割を担っており、バス路線の確保・維持は今後の地域づくりにおける課題です。

路線バスの待合所や上屋の整備など、路線バス利用者の利便性の向上を促進するとともに、地域特性に応じた「地域の足の確保」のあり方を検討します。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの待合所、上屋の整備等利用環境の向上 ・路線バスの確保・維持 など
------	---

地域づくりの方針図 三島地域

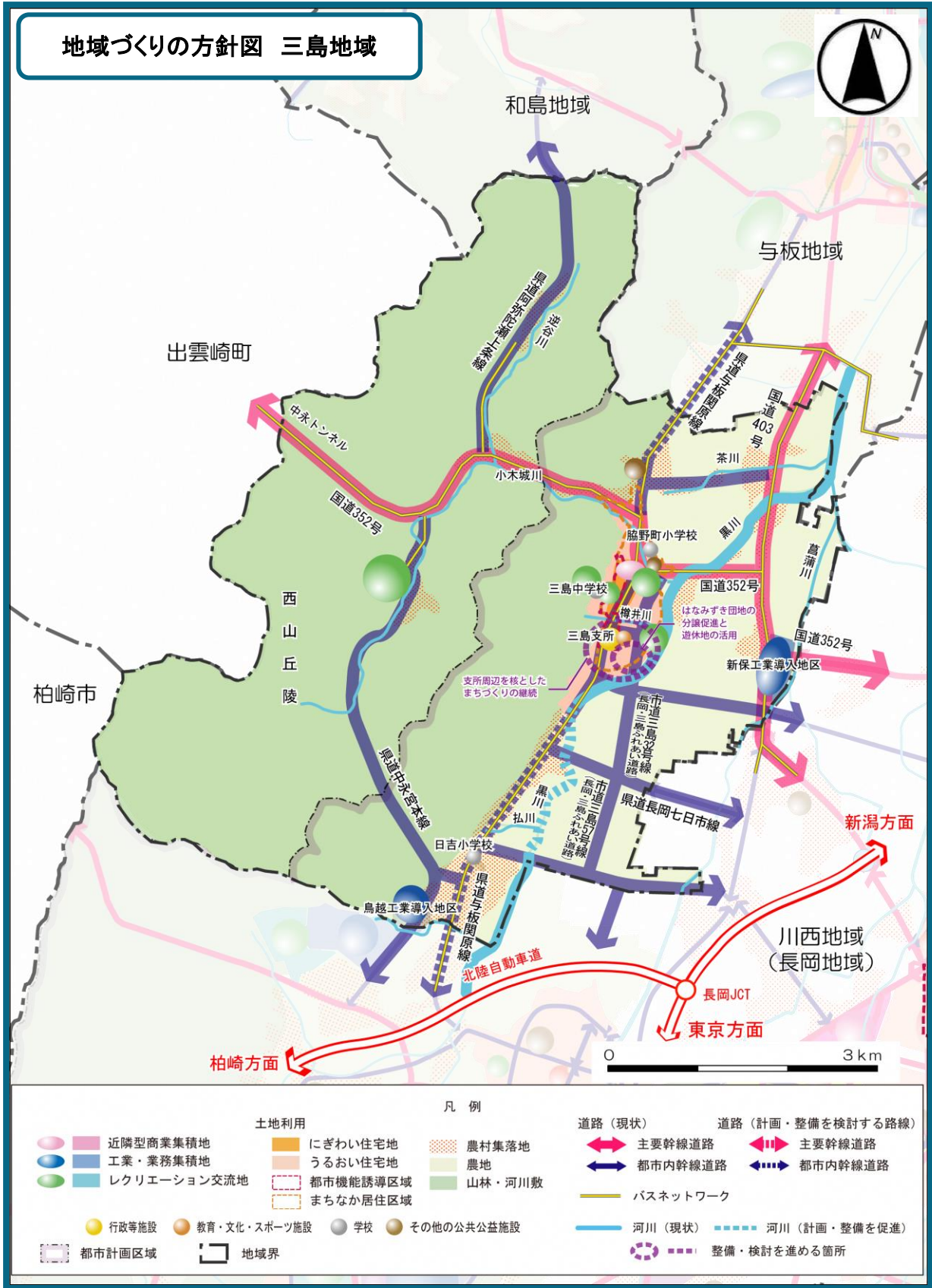
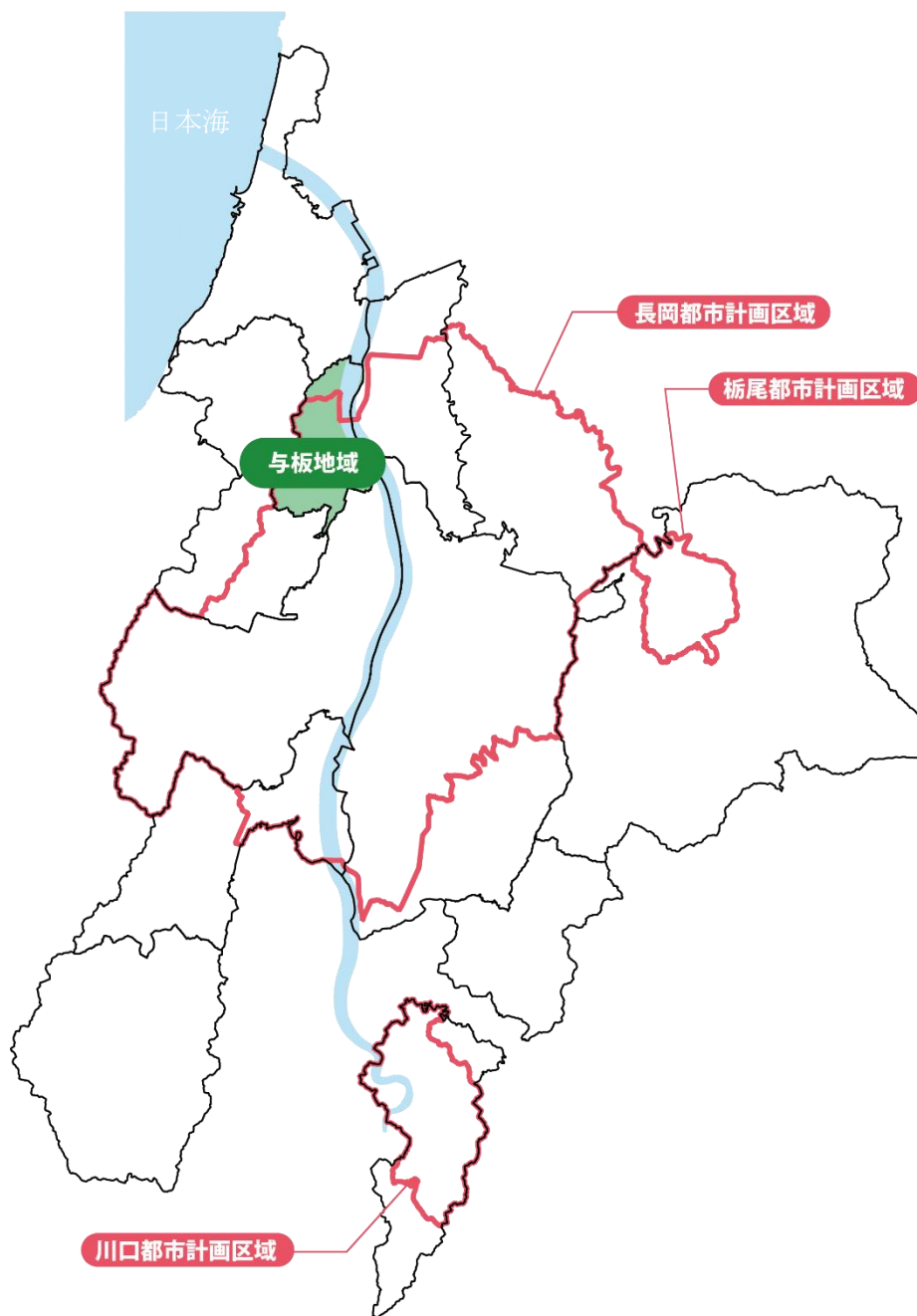


図 3-4-2《地域づくりの方針図 三島地域》



よいたん

第5節 与板地域



第5節

与板地域

◀地域に関するデータ

(2020年4月住民基本台帳) ▶

- ・総面積： 20.1 km² (2.3%)
- ・総人口： 6,198 人 (2.3%)
- ・世帯数： 2,274 世帯 (2.1%)

※ () 内は市全体に占める割合

1 地域の現状

(1) 人口

- 地域人口は、2020年で6,198人。地域別人口増減(2009年～2019年)は、地域全体で11.3%の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。
- 国道403号沿道(与板、東与板地区)及び江西地区のまちなか居住区域内に人口が集積しています。日常生活に必要なサービス機能をまちなか居住区域内に維持・確保し、人口密度を高める必要があります。
- 高齢化率(65歳以上人口割合)は、2020年で約35%です。

(2) 産業

- 地域における従業者数は、2016年で2,088人。荻岩井、江東、本与板地区において、工業導入地区が整備され、金属加工などの企業が立地し、就業の場を形成しています。製造業の従業者割合が約4割を占めています。
- 450年余の歴史を持つ伝統的工艺品である「越後与板打刃物」の産地でもあります。
- 2015年時点における経営耕地面積は557ha、農家戸数は159戸です。

(3) 土地利用

- 古くは交通の要衝として栄えた旧三国街道沿いの与板城下町として栄え、土地区画整理事業により市街地を形成しています。
- 診療所や金融機関をはじめとした公共施設等の都市機能は、支所周辺の都市機能誘導区域内に比較的まとまって立地しています。
- 市街地内の大部分が、信濃川等の洪水浸水想定区域に指定されています。西部の谷戸沿いに広範囲な土砂災害警戒区域が指定され、土砂災害特別警戒区域が散在しています。

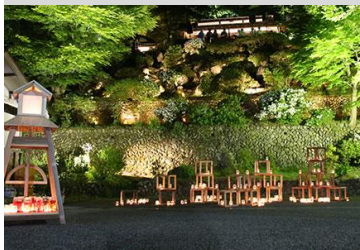
(4) 生活基盤

- 市内中心部を国道403号が縦断し、沿道の与板地区には商店街が形成されています。さらに都市計画公園等の都市基盤も整っています。
- 公共交通として路線バスが運行されています。長岡、寺泊、三島、和島地域と連絡しており、これらの路線バスの利用圏が幹線道路沿線の市街地を概ねカバーしています。
- 上水道は、ほぼ全域に給水しています。下水道については、汚水処理が概成しているものの、市街地における浸水対策事業を進めています。

2 主な地域資源、地域の宝

- 大河ドラマ「天地人」の主人公である「直江兼続」が治めた地で、牧野家・井伊家の城下町としての歴史と街なみが残ります。また、近年は、ドイツで修業した日本人初のビール醸造人である中川清兵衛の偉業をたたえるビール園が整備され、交流人口を創出しています。
- 江戸時代には、信濃川の河川交通の要衝として、全国屈指の豪商が活躍しました。豪商文化の繁栄を示す「楽山苑」などの建築物や鉤型の道路、妻入りの町屋など城下町としての面影が、今もなお残っています。

地域の宝「楽山苑・豪商の文化」



与板の豪商により建てられた「楽山亭」(1892年建築)を中心に整備された庭園。ライトアップや写真撮影会等により魅力を発信。

兼続とお船の里



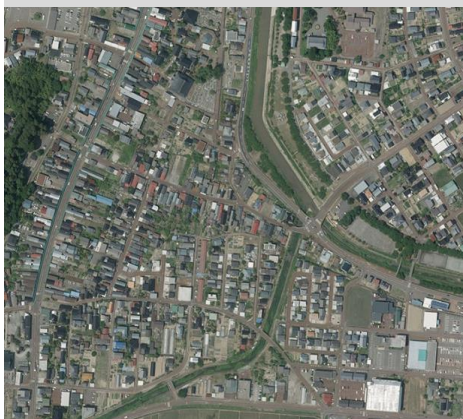
直江兼続が治めた地であり、直江氏の居城であった「本与板城址」、「与板城址」等がある。

地域の宝「城下町与板の街なみ」



「鉤型」の道路、間口の狭い妻入りの町屋造りなどが見られ、城下町の面影を残している。

国道403号沿道



越後与板打刃物



地域を南北に縦断する幹線道路沿いに集落が点在し、国道403号沿道の与板地区に中心商店街が形成。

古くから河川交通の要衝として多くの豪商が活躍し、城下町として栄えた名残を今もその街なみに留めている。

与板十五夜まつり登り屋台



与板★中川清兵衛記念 BBQ ビール園



図 3-5-1 ≪主な地域資源 与板地域≫

3 地域の課題と地域づくりの方針

城下町としての歴史的な街なみの保全や伝統技術の継承により、交流人口の拡大を図るほか、公共施設の老朽化対策の検討や河川改修を促進し、地域住民が安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

(1) 城下町の街なみ・歴史を活かした更なる魅力の創出

鉤型の道路や間口の狭い妻入りの町屋づくり、豪商の文化など与板地域が持つ城下町の街なみや、450年余の歴史を持つ伝統的工芸品である「越後与板打刃物」は、次の世代に引き継ぐべき大切な地域の宝です。

これらの歴史的な街なみや史跡・建築物を維持保全するとともに、観光資源との連携によるイベントの実施や低未利用ストックの活用支援などにより、交流人口の拡大を図り、来街者を増やします。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・城下町の街なみや本与板城址・与板城址・楽山苑の維持保全・市民との協働による自然環境保全の取組推進・地域資源を巡る天地人通りの活用・低未利用ストックの活用支援・越後与板打刃物の保存・継承・PR など
------	---

(2) 公共施設の老朽化への対応

支所をはじめ公共施設の老朽化が進行しており、その対応が課題となっています。

若者を含め、住民が主体的に地域活動に関わっていることから、地域の活動の場づくりは重要です。このため、安全・安心な暮らしを守るための公共施設のあり方、老朽化対策などについて検討を進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・公共施設の老朽化への対応と今後のあり方の検討・消雪施設の維持修繕 など
------	---

(3) 水害に強いまちづくり

市街地の大部分が信濃川などの洪水浸水想定区域に指定されるとともに、西部の谷戸沿いが広範囲な土砂災害警戒区域に指定され、災害への対応が課題となっています。

このため、河川改修工事の促進並びに市街地内の浸水対策工事の推進により、地域の治水安全度を高めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・黒川流末川、与板排水機場の改修工事の促進・市街地の浸水対策事業の推進 など
------	---

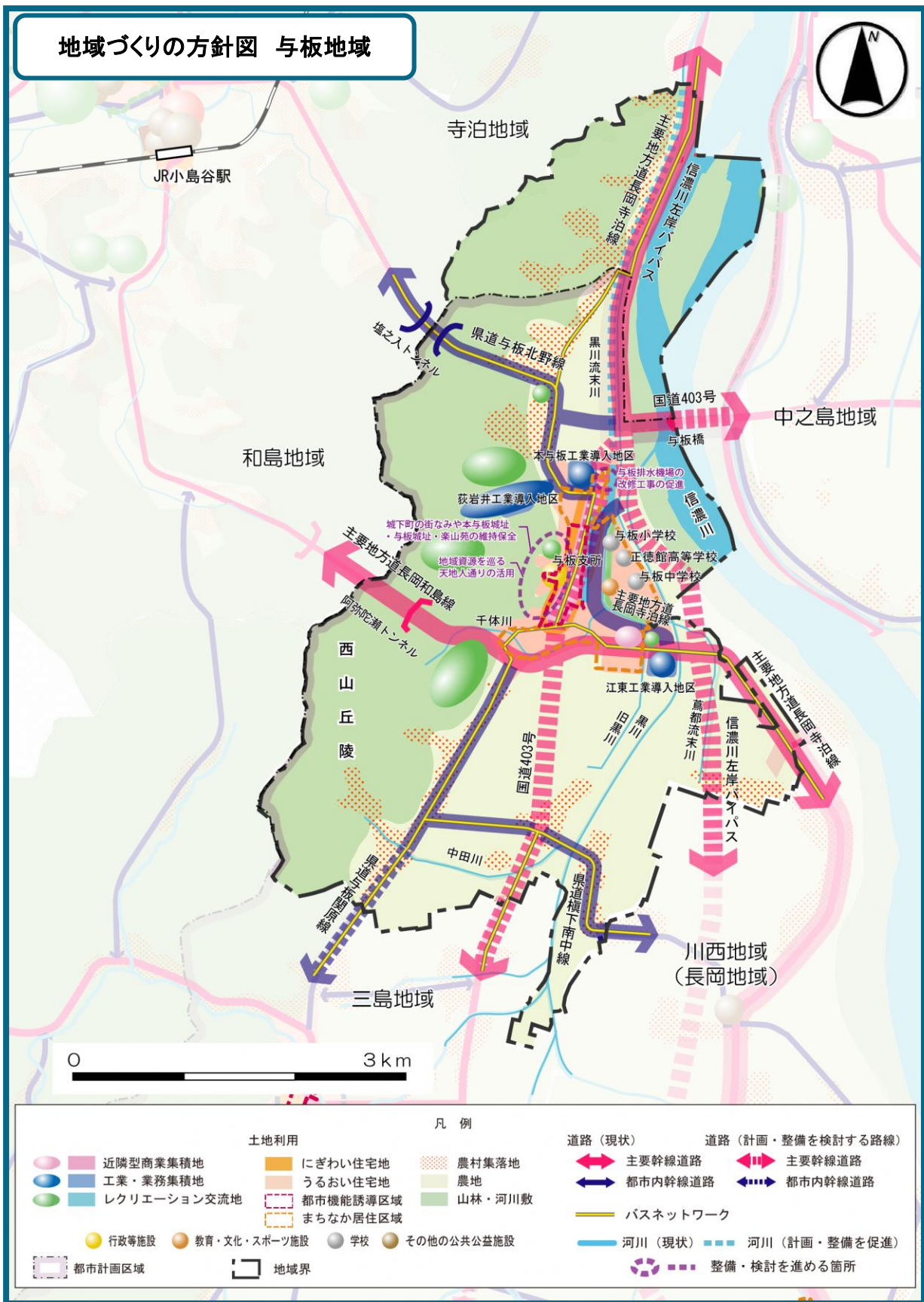
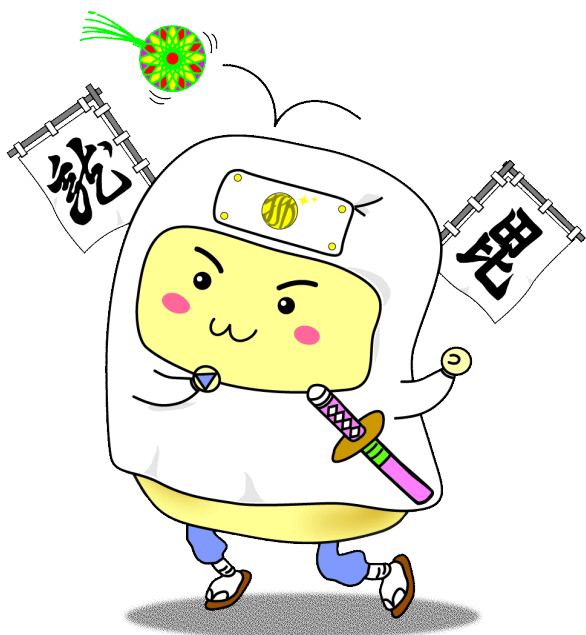
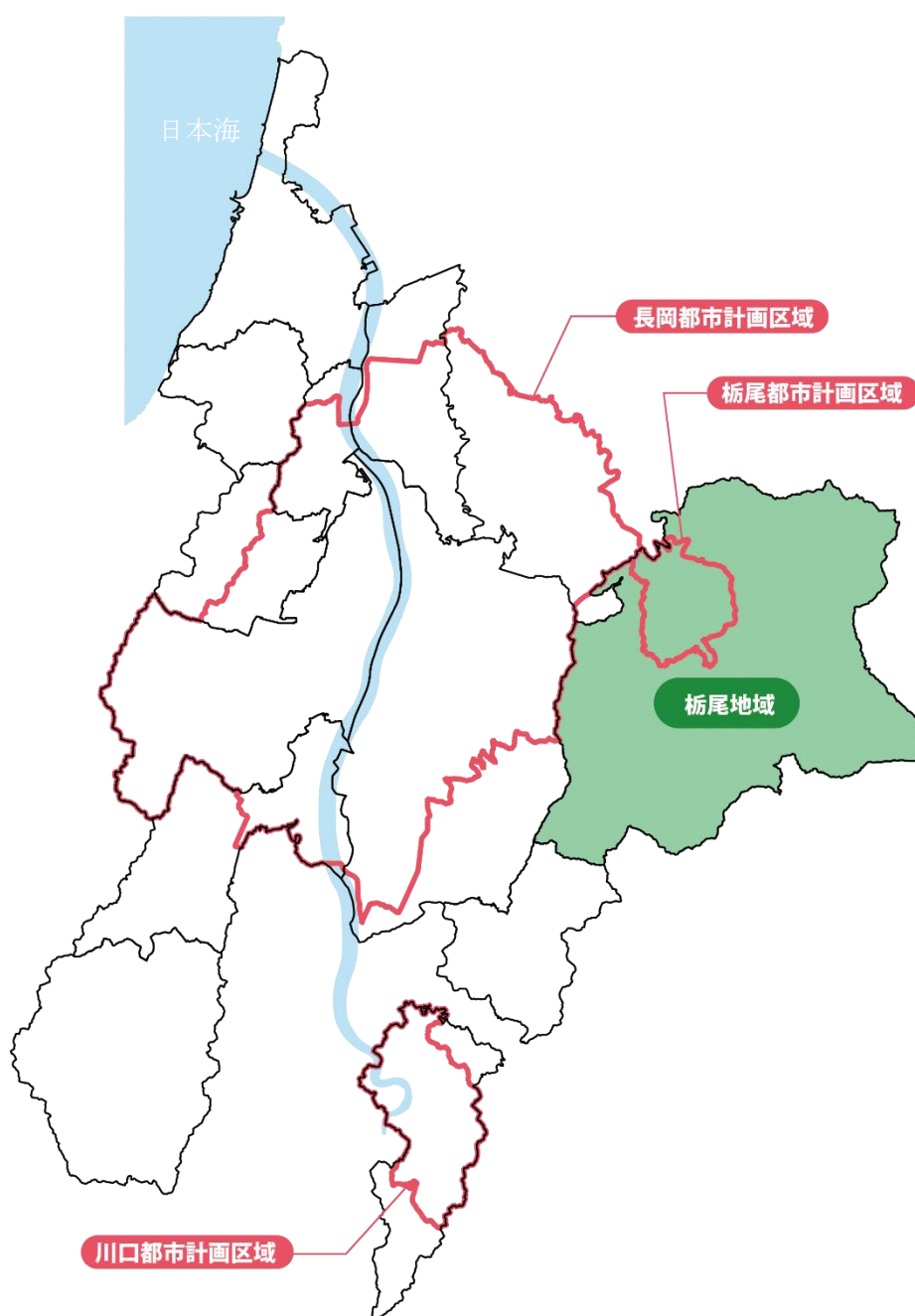


図 3-5-2 《地域づくりの方針図 与板地域》



あぶらげんしん

第6節 栃尾地域



第6節

栃尾地域

◀地域に関するデータ

(2020年4月住民基本台帳) ▶

- ・総面積：204.9 km² (23.0%)
- ・総人口：17,227人 (6.4%)
- ・世帯数：6,985世帯 (6.4%)

※ () 内は市全体に占める割合

1 地域の現状

(1) 人口

- 地域人口は、2020年で17,227人。地域別人口増減(2009年～2019年)は、地域全体で20.7%の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。
- まちなか居住区域内の市街地中心部(栃尾地区)で人口が集積しています。日常生活に必要なサービス機能をまちなか居住区域内に維持・確保し、人口密度を高める必要があります。
- 高齢化率(65歳以上人口割合)は、2020年で約42%です。

(2) 産業

- 地域における従業者数は、2016年で5,800人。地域の特産品の販売をはじめとした卸売業・小売業のほか、製造業と建設業が盛んで、製造業の従業者割合が約3割を占めています。
- 2015年時点における経営耕地面積は1,125ha、農家戸数は816戸です。

(3) 土地利用

- 刈谷田川と西谷川の合流地点の市街地周辺(栃尾地区)には、地域の基幹産業として織物等の工場が立地し、就業の場を形成してきました。しかし、近年では衰退が著しく、工場撤退に伴う遊休地が発生しています。
- 診療所や商業施設、金融機関をはじめとした公共施設等の都市機能は、雁木が残る市街地の中心部とこれに連担する市街地に、比較的まとまって立地しています。
- まちなか居住区域内や谷戸沿いの広い範囲に土砂災害警戒区域が指定され、谷戸沿いには土砂災害特別警戒区域も散在しています。

(4) 生活基盤

- 国道290号が南北に縦断しているほか、東西に国道351号が配置され、地域住民の日常生活や産業振興を支える重要な路線となっています。
- 都市計画道路の整備率は約50%と低く、今後のニーズを踏まえ、長期未着手路線の見直しが必要です。都市計画公園は整備済みです。
- 公共交通として、路線バスが市街地と周辺の集落を放射状に結ぶネットワークとして運行しています。また、廃止路線では、生活交通の確保に向けたデマンドタクシーの実証運行が始まっています。
- 上水道(簡易水道含む)は、ほぼ全域に給水しています。下水道については、汚水処理が概成しています。

2 主な地域資源、地域の宝

- 上杉謙信公ゆかりの史跡や、雪国の生活を感じさせる「雁木の街なみ」等の歴史資源、織物等の地場産業のほか、酒やあぶらげ等の特産品があります。



▲謙信公祭

▲観光ガイド養成講座

栃尾地域は、戦国武将の上杉謙信公が旗揚げをした地であり、上杉謙信公ゆかりの史跡や品が多く残されている。毎年開催されている謙信公祭に加えて、地域探訪ツアーや市民を対象にした勉強会、観光ガイド養成講座などの実施や県外へのPR活動を行っている。



刈谷田川と西谷川の合流部の平地には市街地が広がる。江戸時代中期以降は全国有数の織物産地となり、現在も繊維産業が基幹産業となっている。

図 3-6-1 <<主な地域資源 栃尾地域>>

(長岡地域の宝ポータルサイト、長岡市地域の宝
磨き上げ事業成果報告書(2018年度)ほか)

3 地域の課題と地域づくりの方針

地域交流拠点施設（仮称）の整備や未利用地の解消を図り、地域住民の活動の場を支援するほか、土砂災害防止工事や日常生活に必要な「地域の足」の確保、冬期間における移動環境の整備により、地域住民が安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

(1) 栃尾地域交流拠点施設（仮称）の整備と地域活性化の取組支援

公共施設が都市機能誘導区域内である中心部に比較的まとまって立地しているものの、施設の老朽化が進行しています。一方、中心部では、工場の撤退による大規模な未利用地が存在し、地域全体の活力の低下と周辺における治安の悪化の恐れがあります。

今後は、老朽化した公共施設を集約・再編する「栃尾地域交流拠点施設（仮称）」の整備を推進し、栃尾地域の住民の活動の場を確保するとともに、都市機能誘導区域における未利用地の解消を図り、地域活性化を目指します。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃尾地域交流拠点施設（仮称）の整備の推進 ・ 中央公園のリニューアル ・ 支所跡地等の有効活用についての検討 <p style="text-align: right;">など</p>
------	---

(2) 中山間地域の暮らしを守る災害に強いまちづくり

栃尾地域は、四方を守門岳と東山山系に囲まれており、谷戸沿いに広範囲な土砂災害警戒区域が指定されています。このため、山あいの集落における土砂災害の発生防止と地域防災体制の強化が求められています。

山あいの集落での安全・安心な暮らしを守るため、天神山の土砂災害特別警戒区域内での法面工事や、新山、栃堀での地滑り対策工事を促進します。また、「栃尾地域防災拠点整備事業」として、診療所跡地を活用した消防署の移転を推進し、地域における防災機能の強化を図ります。

主な取組	・ 栃尾地域防災拠点整備事業の推進 ・ 天神山の法面工事の促進 ・ 地滑り対策工事の促進（新山、栃堀） など
------	--

(3) 「地域の足」の確保

路線バス利用者の減少に伴う路線廃止など、地域内交通の維持が課題となっています。

住民ニーズを踏まえた運行となるよう、デマンドタクシーの運行を進め、生活交通利用者の増加を図るとともに、生活に密着した「地域の足」の確保に向け地域内交通のあり方について検討します。

主な取組	・ 乗合型デマンドタクシーなどの地域特性に応じた「地域の足の確保」の検討
------	--------------------------------------

(4) 地元特産品・歴史的資源を活かした地域づくり

あぶらげや酒、織物、てまりなどの地元特産品や、上杉謙信公旗揚げの地、雁木の街なみなどの歴史的資源は、地域の賑わいづくりには欠かせないものとなっています。

雁木通りの街なみを維持・保全するとともに、地元特産品の価値を高める自発的な活動を支援し、新たな交流人口の拡大や雇用の創出を目指します。

主な取組	・ 雁木通りの維持保全 ・ 地元特産品を活かした地域づくりや雇用の創出 など
------	---

(5) 日常生活に配慮した都市基盤整備の推進

栃尾地域は特別豪雪地帯に指定されています。このため、冬期間における移動環境の確保は、安全・安心な暮らしを続ける上で最も重要な課題です。

幅員の狭い地域内幹線道路や生活道路については、拡幅改良による堆雪帯の確保や流雪溝の有効利用などにより、雪国の特性に応じた都市基盤の整備を推進します。また、除雪イノベーションを推進することで、冬期間における移動の安全性を確保します。

主な取組	・ 都市内幹線道路の整備の促進 ・ 生活道路の拡幅改良、流雪溝施設更新工事の推進 など
------	--

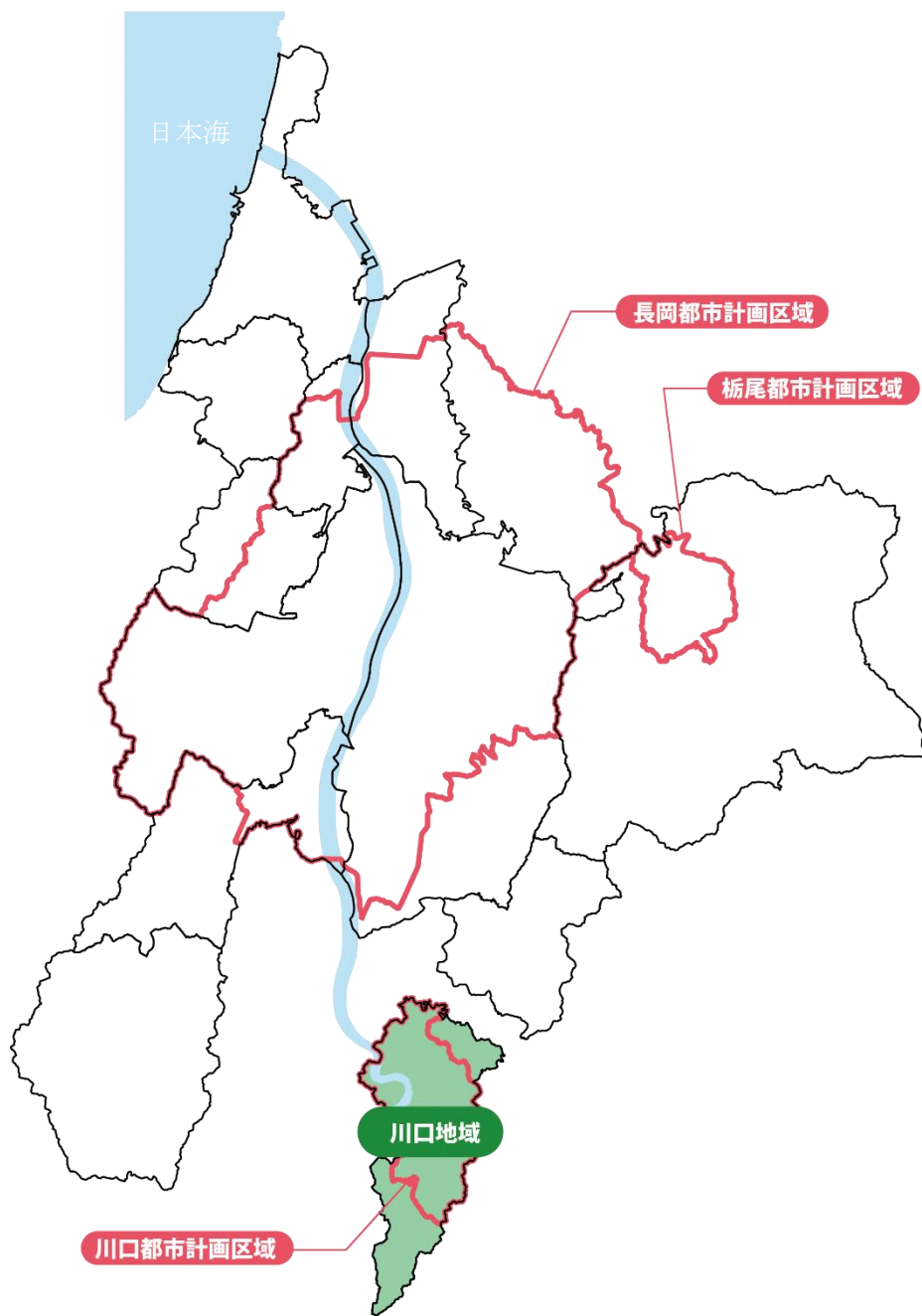


図 3-6-2 《地域づくりの方針図 栃尾地域》



かわぐっち

第7節 川口地域



第7節

川口地域

◀地域に関するデータ

(2020年4月住民基本台帳) ▶

・総面積： 50.0 km² (5.6%)

・総人口： 4,247人 (1.6%)

・世帯数： 1,507世帯 (1.4%)

※ () 内は市全体に占める割合

1 地域の現状

(1) 人口

- 地域人口は、2020年で4,247人。地域別人口増減(2009年～2019年)は、地域全体で16.0%の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。
- JR越後川口駅周辺(東川口地区)の市街地や西川口地区のまちなか居住区域内に人口が集積しています。日常生活に必要なサービス機能をまちなか居住区域内に維持・確保し、人口密度を高める必要があります。
- 高齢化率(65歳以上人口割合)は、2020年で約39%です。

(2) 産業

- 地域における従業者数は、2016年で1,599人。交通アクセス性を活かして、中山、西川口、相川地区に農村工業導入地区が整備され、食品製造などの企業が立地し、就業の場を形成しています。建設業と製造業で従業者割合の約4割を占めています。
- 2015年時点における経営耕地面積は410ha、農家戸数は236戸です。

(3) 土地利用

- 大河「信濃川」と清流「魚野川」という大きな河川によって形成された河岸段丘が地域を取り囲んでいます。河川の合流点周辺には、市街地が広がりを見せ、山あいの傾斜地や幹線道路沿いにも、集落が点在しています。地域中央部には多くの公営住宅が供給されています。
- 商業施設や金融機関、公共施設等の都市機能は、JR越後川口駅周辺をはじめ、西川口地区などに比較的まとまって立地しています。
- 信濃川と魚野川の合流地点を有し、支所周辺を含む市街地の大部分が信濃川等の洪水浸水想定区域に指定されています。さらに、JR越後川口駅の北側山間部において、広範囲な土砂災害警戒区域が指定されています。

(4) 生活基盤

- 関越自動車道「越後川口IC」や国道17号ほか主要幹線道路が整い、恵まれた交通体系を有しています。さらに中山地区にはスポーツ施設、温泉・宿泊施設などがまとまって整備された「川口総合交流拠点施設」及び「川口運動公園」があります。
- 公共交通として鉄道を有し、JR越後川口駅は、JR上越線、飯山線の発着点となっています。さらに小千谷市、魚沼市と連絡する路線バスや生活交通としてのコミュニティバスが運行され、主要な集落をネットワークしています。
- 水道は、簡易水道により、ほぼ全域に給水しています。下水道については、汚水処理が概成しています。

2 主な地域資源、地域の宝

- 「ふるさとの森」や「魚野川と信濃川の河川空間」、「天神ばやし」などの地域の宝があります。観光・交流資源として、「魚野川のやな場」や「川口運動公園」、「川口温泉」、道の駅「越後川口あぐりの里」、「魚野川水辺プラザ」などがあります。

- 山菜、キノコ、アユ、錦鯉などの地域資源があります。さらに、都市と農村の交流を深めていくため、特色ある地域資源を活かした農山村滞在型・体験型交流事業（グリーン・ツーリズム）にも取り組んでいます。



図 3-7-1 《主な地域資源 川口地域》

（長岡地域の宝ポータルサイト、長岡市地域の宝 磨き上げ事業成果報告書（2018 年度）ほか）

3 地域の課題と地域づくりの方針

老朽化した公共施設や交流拠点施設のあり方を検討し、地域全体での交流人口の拡大を図るほか、恵まれた交通体系を活かした移動環境の強化や「地域の足」の確保、土砂災害防止工事の促進などにより、地域住民が安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

（1）コミュニティセンターを核とした公共施設のあり方の検討

川口地域では、支所を含む多くの公共施設において、老朽化の進行や利用者数の減少といった課題があります。今後の地域づくりに当たっては、コミュニティセンターを核に、地域に必要な機能を集約し、持続可能な公共施設のあり方や活用方法について検討を進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターのあり方の検討 ・地元が主体となった集会施設の維持 ・東川口保育園の移転の検討 	など
------	--	----

(2) 川口総合交流拠点施設をはじめとした観光・交流施設の利用促進

川口総合交流拠点施設及び川口運動公園は、川口温泉やホテルサンローラ、野球場、体育館など、様々な機能を備えており、活用が期待されています。その一方で、多様な施設の維持・管理費が課題となり、厳しい経営が続いています。このため、川口総合交流拠点施設の効率的な運営等について検討を進めるとともに、地域内の観光・交流施設やグリーン・ツーリズムとの連携を図り、川口地域全体での交流人口の拡大を目指します。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・川口総合交流拠点施設の活用・あり方の検討・既存の観光・交流施設、グリーン・ツーリズム等との連携推進・魚野川水辺プラザの整備と利用促進 など
------	--

(3) 道路交通機能の強化・輸送網の確保

川口地域は、高速道路網や国道17号などの重要路線を有し、主要地方道により小千谷市や魚沼市などとも繋がっています。更には、関東圏からの玄関口です。

年間を通じて川口地域と他県、他市を結ぶ円滑な輸送環境を維持することは、本市全体の日常生活や産業振興を支えるだけでなく、災害時における人員・物資の確保の面で効果をもたらします。よって、国道17号和南津トンネルの改良工事などを促進します。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・国道17号和南津トンネルの整備促進・主要地方道小千谷川口大和線道路改良工事の促進 など
------	---

(4) 災害に強いまちづくり

信濃川と魚野川の合流地点であり、市街地の大部分が洪水浸水想定区域に指定されていることや、広範囲な土砂災害警戒区域の指定により、複合災害への対応を検討する必要があります。このため、頻発・激甚化する災害から市民の生命、財産を守るため、河川改修工事や砂防工事を促進するほか、安全な居住環境の確保について検討し、災害に強いまちづくりを進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・大平沢川の改修工事の促進・土砂災害防止対策工事の促進・雪崩、落石防止対策工事の促進 など
------	---

(5) 「地域の足」の確保

公共交通空白地域への対応として、既にコミュニティバスの運行が始まっているものの、その利用者の拡大と維持が課題となっています。このため、利用実態に合わせた運行の見直しにより、利用者の拡大を図ります。また、JR越後川口駅の利便性向上に向けた、駐車場と駐輪場整備の検討を進めます。

主な取組	<ul style="list-style-type: none">・JR越後川口駅周辺の駐車場、駐輪場整備の検討・コミュニティバスの運行維持と運行見直しによる利便性の確保 など
------	--

地域づくりの方針図 川口地域

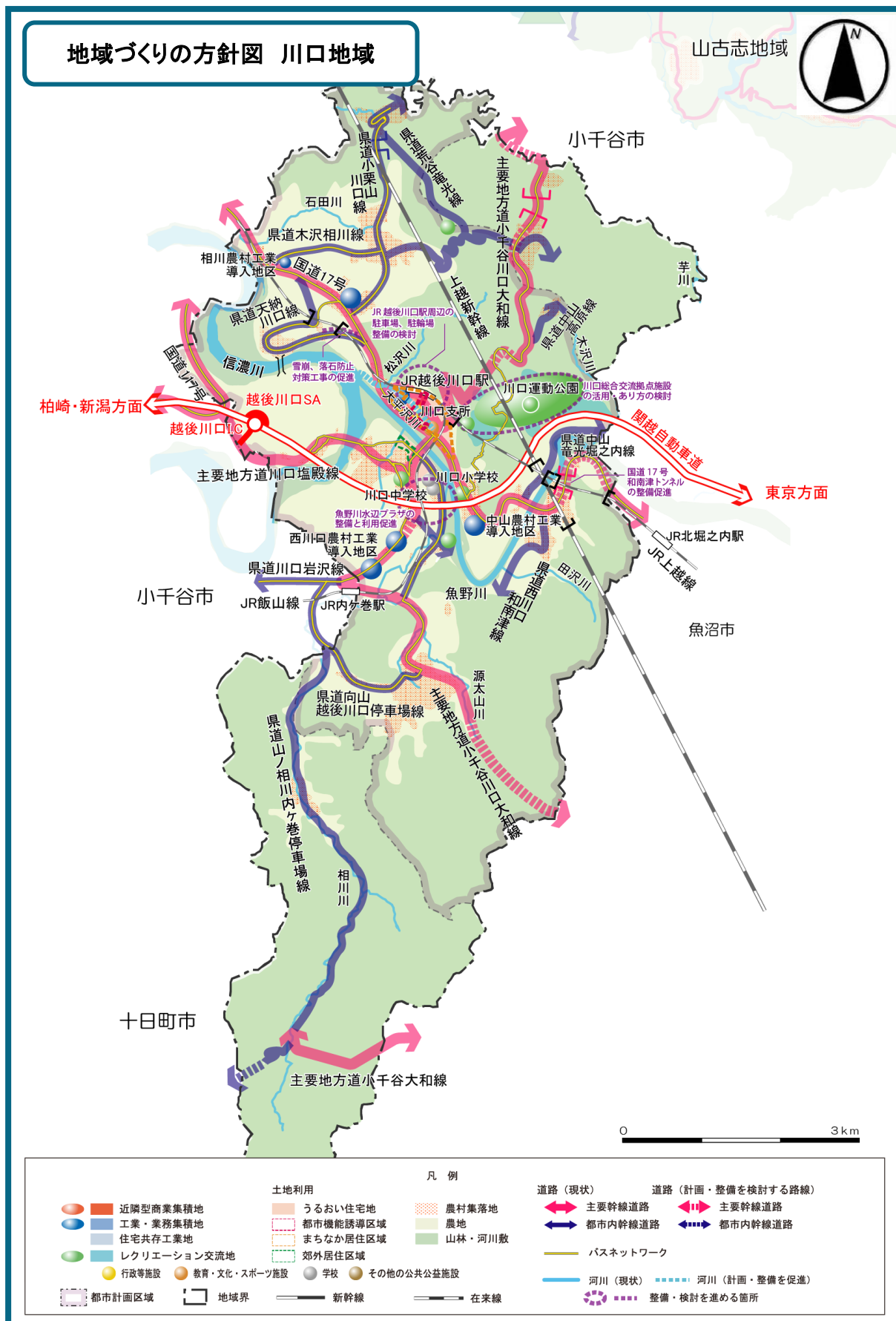


図 3-7-2 《地域づくりの方針図 川口地域》

第3章 地域別構想
第7節 川口地域



小太郎